

東日本大震災

日本救助犬協会「うらやすチーム」出動報告

報告者 チームリーダー 西原幹夫

東日本大震災は2011年（平成23年）3月11日14時46分18秒に発生した。日本観測史上最大のマグニチュード9.0を記録した。この地震により東北地方太平洋沿岸部に巨大な津波が押し寄せた。波の高さは10メートル以上、最大遡上（そじょう）高38.9メートルに達した。岩手県宮古市、大船渡市、陸前高田市、宮城県気仙沼市、南三陸町、石巻市など壊滅的な打撃を受けた。また、地震と津波により福島第一原子力発電所事故をも誘発してしまった。死者1万4704人、行方不明者1万969人（5月2日警察庁発表）、建造物は10万棟以上の崩壊、ライフライン、鉄道・道路の寸断、停電世帯800万世帯以上、さらには液状化現象、地盤沈下など深刻なものだった。

日本救助犬協会はこの大震災に対して災害救助犬を出動させた。具体的には以下のとおりだった。

第一次派遣（3.12～3.15）宮城県名取市閑上（ゆりあげ）地区、隊員7名、救助犬2頭、2遺体発見

第二次派遣（3.13～3.15）宮城県南三陸町、隊員4名、救助犬2頭、5遺体発見

第三次派遣（3.28～3.31）宮城県石巻市土砂崩れ現場、隊員6名、救助犬4頭

第四次派遣（4.5～4.11）岩手県大船渡市および陸前高田市、隊員6名、救助犬5頭、2遺体発見

第五次派遣（4.8～4.11）岩手県陸前高田市、隊員9名、救助犬8頭

このように延べにして災害救助犬21頭が出動した。生存者を発見できなかったとはいえ、出動した災害救助犬はよく頑張った。日頃の瓦礫訓練の成果だろうか、ケガをした犬はいなかった。

出動した他チームの搜索状況と内容は正確にはわからないので、ここではわれわれうらやすチームが関係した出動について簡潔に報告したい。



うらやす隊と4頭の救助犬

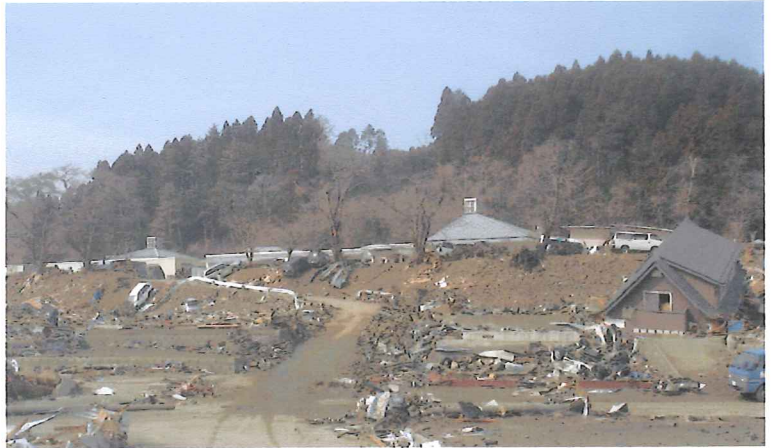


瀏野アリス号と瀏野アンリ号（陸前高田市にて）

3月13日～15日（宮城県南三陸町老人ホーム搜索）

第二次搜索隊は、K9-JTFとうらやすの合同チームとして編成された。リーダー・若山 望、隊員・奥田 健、松原和子、岡澤恵美子の3名、災害救助犬・モニカ、琉の2頭だった。本部には西原他数名が詰めた。携帯はほとんどつながらず、連絡がとりにくい状態が続いた。そのため若山第二次搜索隊リーダーの搜索活動記録および松原和子隊員の報告を参考にしてまとめた。

3月14日（月）9時28分頃、搜索隊は宮城県南三陸町志津川地区に到着した。現地対策本部の要請で宮城県警とともに**特別養護老人施設慈恵園（「のぞみ園」）**の搜索にあたることになった。のぞみ園は標高10～12mの高台にあるにもかかわらず、津波は床上2mにも達していた。鉄骨で出来た外壁は残るものの内部は足の踏みようのない状態だった。床は10センチぐらいまで汚泥で埋まっていた。



小高い丘の上にある慈恵園「のぞみ園」。津波が一瞬にして老人ホームを呑み込み、多数の老人たちの命を奪った！

地震発生直後から宮城県警および県外からの消防隊が生存者のご遺体の搜索を行っていた。そして施設奥には10体をこえる遺体が並べられ、検死が行われていた。搜索の30分前には生存者が1名発見されたとの報告も受けた。人間の目で発見するのはもはや難しい状況にあった。宮城県警現場指揮官の佐藤次長の快諾を得て、災害救助犬による搜索が開始された。

一日目の搜索概要（3月14日）

効率よく搜索するために2班に分かれた。第1班は、奥田&救助犬モニカ号、サポーター若山、県警4～5名、第2班は、松原&救助犬琉号、サポーター岡澤、県警4～5名だった。班同士の通信はアマチュア無線を使った。

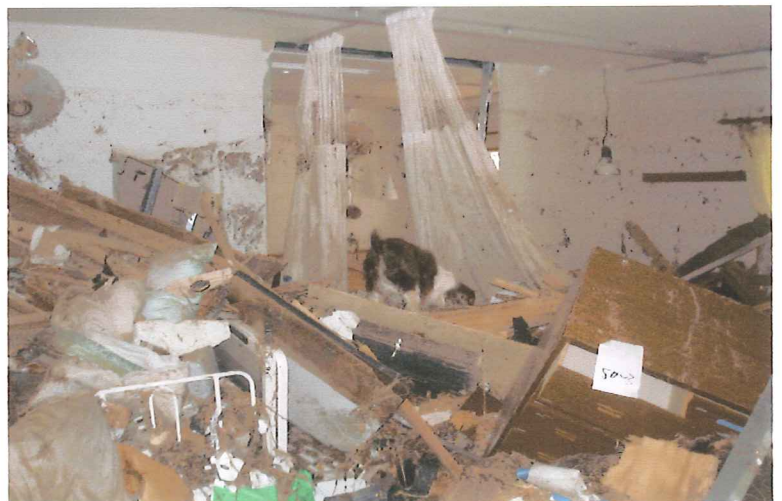
10時40分頃、モニカ号、車庫用建物内で反応し、その場所で老女1名を発見した。

10時59分頃、余震による津波警報で搜索中断（デマ情報）。

11時26分頃、福島第一原発が爆発し、「全員、志津川高校校舎内に避難せよ！」という命令が出て、ふたたび搜索活動が中断した。

12時06分頃、避難待機指示が解除となった。

14時30分頃、琉号、室内の舞台中央部カーテン内側で不自然な反応、その後吠える。



1 遺体を発見した。

15時07分頃、モニカ複数車両が積み重なった場所で反応し、その箇所から2名の男性遺体を発見。

琉号、ベットやフトンなどが散乱した室内を丹念に搜索

15時18分頃、琉号、室内ベット周辺で反応、吠えて告知する。県警の警察官が周辺を確認するとベット手前のソファ下で男性1名の遺体を発見した。

16時18分頃、宮城県警に対して救助犬2頭にて5遺体発見を報告した。犬たちの疲労を考え、14日の搜索を終了した。

宿泊は県警災害対策本部のある志津川地区の入谷小学校校庭だった。被災地や被災者に迷惑がかからないようにテントを張り、自給自足を貫いた。

二日目の搜索概要（3月15日）

現地二日目の搜索は昨日と同じ老人ホームだった。昨日十分チェックされていない場所を選んで搜索した。班編成は少し変えた。

第一班は奥田&モニカ号、岡澤、県警員、第二班は松原&琉号、若山、県警員となった。

8時30分頃、二手に分かれ搜索開始。

9時09分頃、琉号車両と倒壊家屋の間で反応、吠えるが発見に至らず。

9時48分頃、モニカ号も合流、琉号が反応した場所を搜索する。同様に反応があったが、発見に至らず。

14時23分頃、昼食後にチェック漏れがないように丁寧に搜索。前日のような反応がないため搜索を終了。

15時25分頃、黙祷し、帰路につく。

後にわかったのだが、われわれと入れ替えにスイス救助犬協会のリンダ女史が南三陸町に来て2遺体発見した。

（なお、今回の経験から衛星携帯電話の必要性を痛感した）。



ハンドラーの奥田隊員が見守るなか搜索を続けるモニカ号
（今にも崩れそうな不安定な足場、瓦礫の山で搜索！）



老人ホームに流れ着いた民家の屋根に登り、懸命に生存者の搜索を続ける琉号。（左上の赤く見えるのがハンドラー）



津波で民家も押し流されてきた。老人ホームの周りを丹念に搜索を続ける琉号。

4月8日～10日（岩手県陸前高田市の広域搜索）

うらやすチームは、第五次搜索隊の一員として4月8日から10日まで岩手県陸前高田市に出動した。搜索チームは西原幹夫（リーダー）、松原和子、大野晃弘、谷本好史、松原博志の5人と災害救助犬4頭（アリス号、アンリ号、バラン号、琉号）だった。本部には浦安訓練場の責任者である渕野美代子が詰めた。

ハンドラーの一人、大野晃弘君は、大学生であり、授業を休んで参加した。

搜索は4月9日（土）、10日（日）の両日行われた。行方不明者のいる家族にとっては、一縷の望みを救助犬に託して搜索してほしいという強い願いがあった。ブルドーザーなどの機械が入る前に行方不明者を捜したい、これが被災地の思いだった。

この呼びかけにわれわれ日本救助犬協会だけでなく、さまざまな団体の救助犬30頭近くが陸前高田市に集結したのであった。驚いたのは、1カ月が経ったのに見渡すかぎり瓦礫の山、水が引かず流木がどこまでも続いていたことだった。（写真上の2枚を参照）

全体の打ち合わせを済ませ、警視庁第6機動隊と合流し、10時40分頃より搜索を開始した。

うらやすチームは第1班、救助犬2頭（アンリ号、アリス号）、指導手西原、サポーター谷本。第2班、救助犬2頭（バラン号、琉号）、指導手松原和子、大野、サポーター松原博志（記録、連絡係も兼任）。必死の搜索にもかかわらず、反応はほとんどなかった。主に搜索した地域は、ドラゴンレール大船渡線周辺（小友地区、浦の前地区、金田地区、宮崎地区、花崎地区など）だった。

この日の搜索は本部からの指示により15時に終了。われわれの2班とも15時30分頃に集合場所に戻り、犬の状態をチェックし、終了する。



ただただ驚いた。1カ月が経過しようとする4月9日なのに流木がどこまでも続くではないか！気が遠くなるような搜索だった。



津波で何もかも流されてグチャグチャに曲がった線路、押しつぶされた車の残骸。まるで爆撃を受けた町のような状況だった。これが被災地・陸前高田市の現実だ。



全国からさまざまな救助犬団体とたくさんの救助犬が陸前高田市に集結した。みんなの思いはただ一つ。一人でも多くの行方不明者を捜そう。小雨が降りしきるなか、黙々と搜索場所へ移動。



アンリ号が懸命に搜索する姿。いまだに水が引かず。流木の下は、大人がやっと立てるほどの深い場所もあった。海水と魚の腐った臭いで搜索も難航した。

4月10日（日）の搜索は早朝8時30分頃より始まる。うらやすチームは昨日同様に2班に分かれて搜索。

8時50分頃、340号の道路沿いの漂流物堆積場でアリス号反応、吠えて知らせる。確認のためアンリ号を出す。同様に吠えて告知する。（写真右上の場所）黄色のガムテープでマークを付ける。第6機動隊に連絡し、搜索を要請した。機動隊が手作業で瓦礫を取り除く。再度アリス号およびアンリ号が同じ場所を搜索、臭いを嗅ぐが吠えないのでその場の搜索を終了。

11時20分頃、343号線橋の下流東側に太い立木があり、その周辺の堆積漂流物にアリス号が反応して、吠える。アンリ号に替えて確認したが反応なし。黄色のガムテープでマーキング。

一方 balan 号と琉号も倒壊家屋、つぶれた車両を一つひとつ確認したが、目立った反応なし。午前の部は11時40分頃に終了し、休憩に入る。

午後は大船渡線竹駒駅跡に集結し、細根沢地区を担当。13時30分頃搜索を開始。その直後、二日間まったく反応しなかった琉号が沢入口付近の流木で重なりあった堆積物を嗅ぎ、吠えて告知する。第6機動隊が数名かけつけ、手作業で堆積物を取り除く。なかから衣類や簡易ベットが出てきた。その臭いに反応したようだ。われわれの隊は行方不明者を発見できなかったが、日本救助犬協会としては2遺体を発見したと後日報告を受けた。

15時00分、すべての搜索作業を終えた。4頭5名異常なし。帰路に就いた。

搜索を終えて

今回の震災で亡くなった皆さんに対して合掌します。また尊い命を奪われた家族の皆さんにもお悔やみを申し上げます。

われわれも東北地方の復興のために、福島原発で被害を受けている方々のために、微力ではありますが、できることから手助けをし、一步一步前を向いて進みます。頑張りましょう。

最後になりましたが、今回の出動で犬のケガなどに憂慮して、たくさんのお薬を無償で提供くださいました「すとう動物病院」(浦安市)の院長・周藤行則先生に感謝とお礼を申し上げます。



反応した場所の瓦礫を取り除き、ふたたびアリス号の反応をチェック、まだ臭いが残っているようでその場からなかなか離れない。



balan 号、流木の山のなかを一つひとつ搜索。



琉号、日頃の瓦礫訓練の成果か、ケガひとつせず、頑張る。